13
2021

放射線情報まとめニュース

ライフとみおか

Contents

PAGE TOPICS
1-2 富岡町の山道における外部被ばく線量評価
3 長崎大学のリスコミ！
4 旬！な自家製食材放射性物質情報
5-6 なぜなに？放射線情報まとめサイト





Cover photo

大倉山　赤木登山ルート（塩の道）（2021年7月撮影）

県道35号線富岡町赤木地区近くに登山口があり、昔は仏浜に陸揚げされた物資や塩を川内村や三春藩領、二本松藩領に運ぶのに使われた重要な道で「塩の道」と呼ばれています。

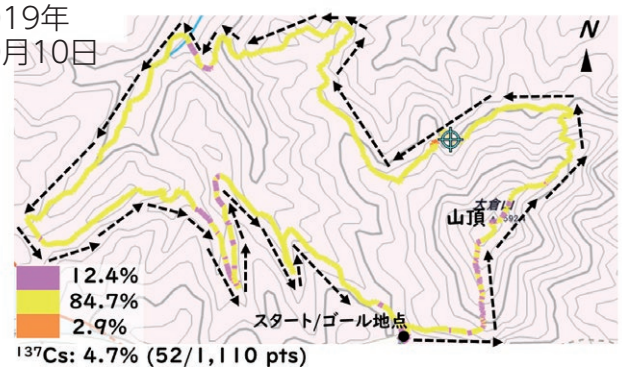
※注意：東日本大震災後、山道の整備が行われていないため、入山はご遠慮ください。

大倉山森林公園の現状と放射線量

大倉山ハイキングコース内における、2019年10月に発生した台風19号や局地的豪雨、また、2021年2月に発生した福島県沖地震（最大震度6強）による森林内の空間線量率への影響について、長崎大学と富岡町でモニタリングを行った結果を紹介します。

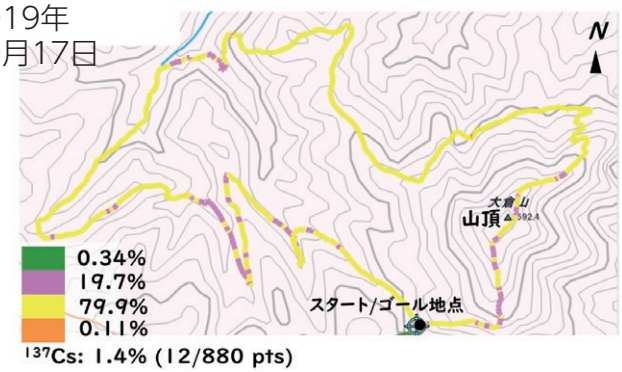
■ 地図で見る計測順路

A 2019年10月10日





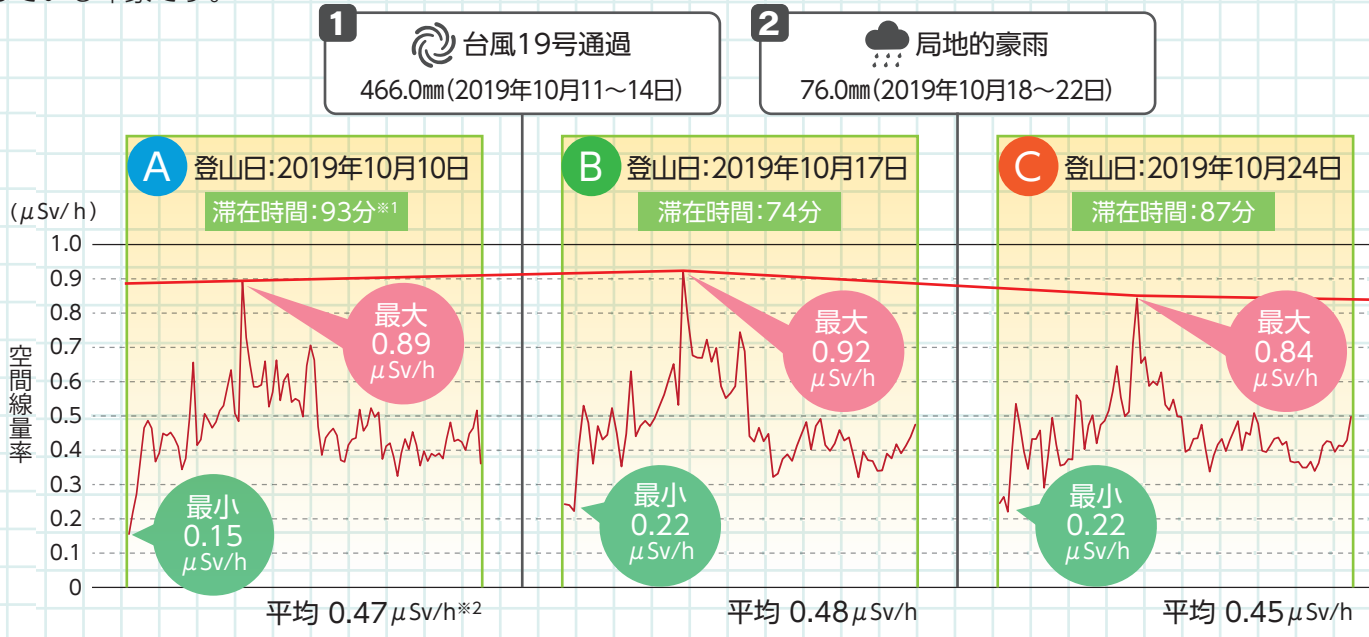
B 2019年10月17日





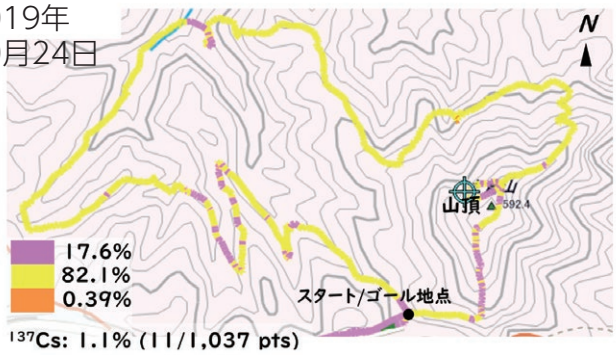
■ 大倉山（標高592.4m）のハイキングコース内の空間線量率の時間変化

森林の環境放射能は、台風・局地的豪雨あるいは強い地震による影響は認められませんでした。つまり、事故直後や河川などでよく見られるような放射性セシウムが雨などで流されやすい性質とは異なり、樹木や土壌など自然の恵みに覆われた森林では放射性セシウムが蓄積しやすいため、空間線量率が急に減少するような現象は起きにくいと考えられます。下のグラフを見ると、空間線量率の波形が大きく変化していないことがわかります。しかしながら、初期のモニタリング（2018年10月）から約2年半経過し、徐々に低減化している印象です。



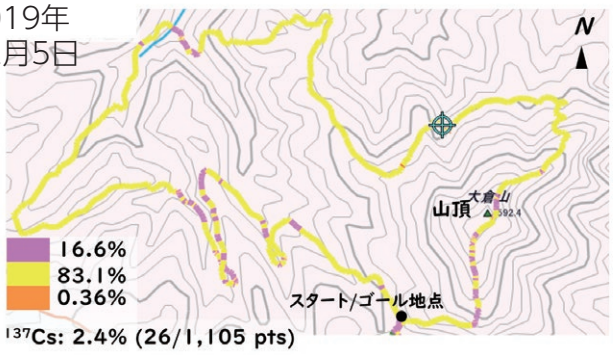
※1：スペクトロサーベイメータ（RADEYE SPRDJ、㈱千代田テクノル製）による計測時間　※2：RADEYE SPRDJによる測定

C 2019年
10月24日

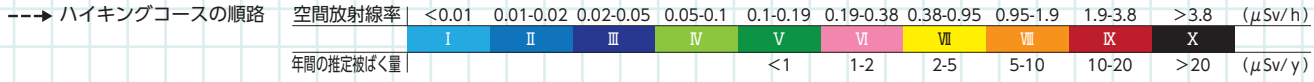




D 2019年
12月5日

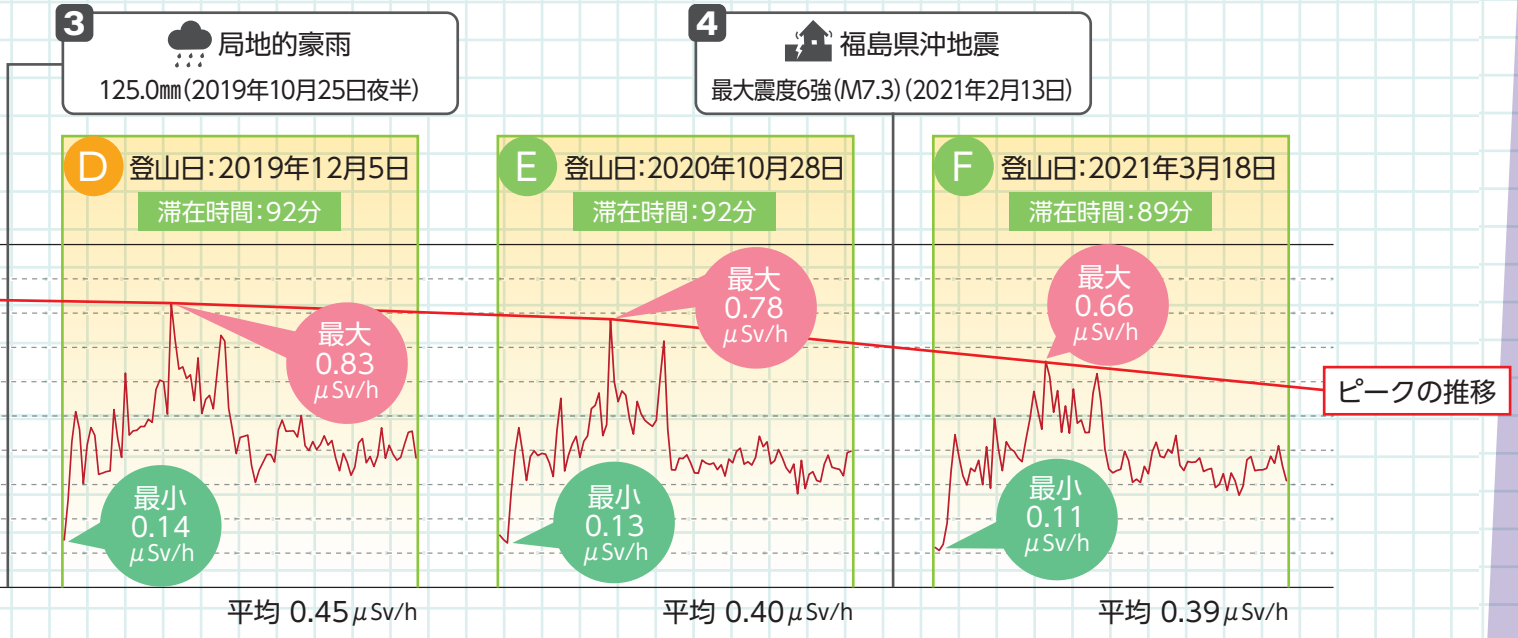






2019年10月に福島県を通過した台風19号により、広い範囲で河川の氾濫や土砂災害・水浸害が相次ぎましたが、このような自然災害級の大雨や暴風等を経験してもなお、森林内の空間線量率や放射性セシウムの分布に大きな変動は認められませんでした。しかしながら、長期的なモニタリングでは、少しずつではありますが放射線量が下がっている傾向が見られます。このような移行期間においては、個人被ばく線量計を携帯しながら活動することが対策の1つになります。

【測定期間中の大きな出来事】
1. 2019年10月12日～13日：台風19号が日本上陸（福島県を通過）
2. 2019年10月18日～22日：76mmの局地的豪雨（気象庁データ、川内村）
3. 2019年10月25日：125mmの局地的豪雨（気象庁データ、川内村）
4. 2021年2月13日：福島県沖地震（最大震度6強、M7.3）



長崎大学のリスコミ!

Nagasaki University Risk Communication

Vol.13

Instructor
長崎大学
平良（たいら）　文亨（やすゆき）さん



個人の活動内容と線量の関係

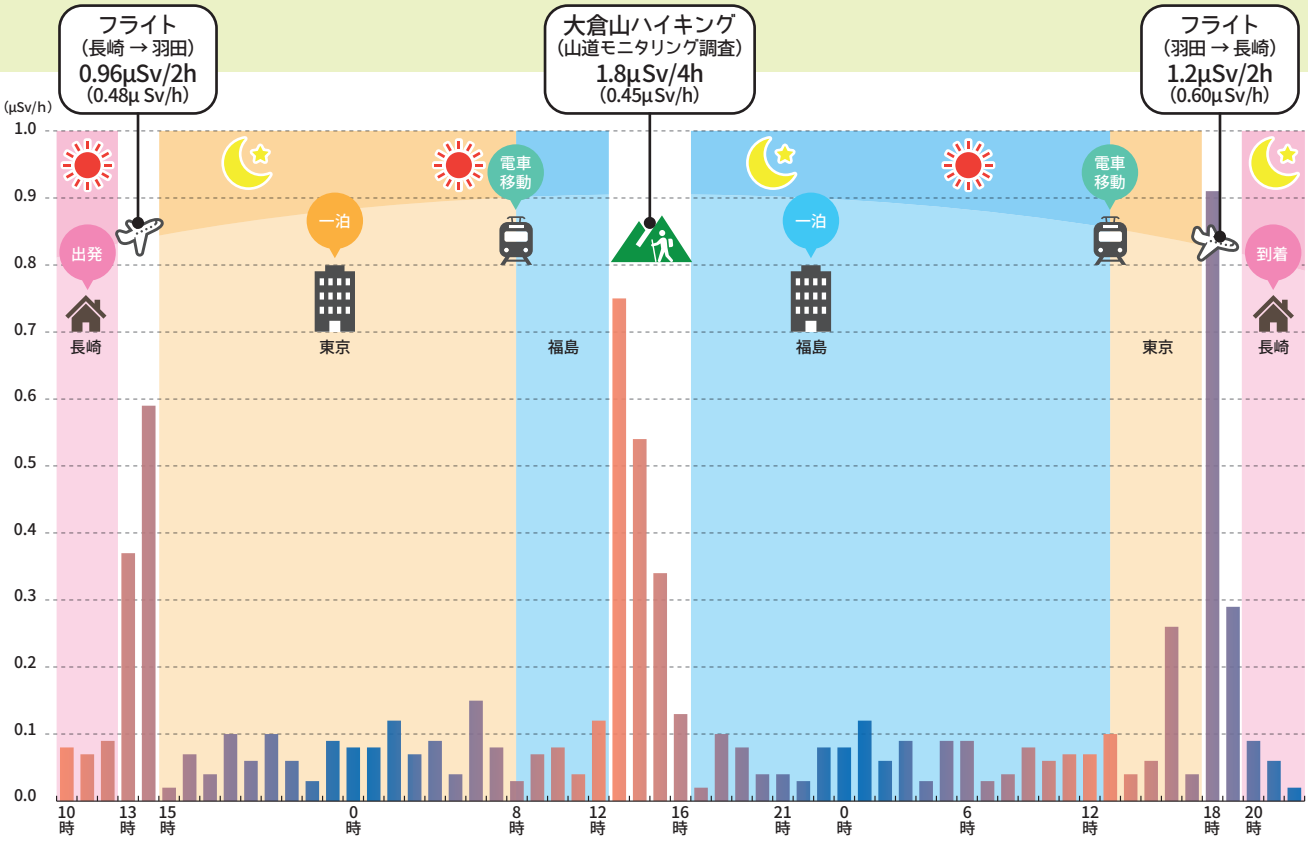
（2018年10月24日10時～2018年10月26日22時）

普段の生活において、我々は放射線の影響を受けています。それには、地球誕生以来あらゆる所に存在している自然放射線、過去の核実験や原子力発電所事故等による人工放射線が含まれています。

グラフに示しているのは、3年ほど前に測定した個人被ばく線量の推移を個人の行動履歴に基づいて表したものです。これを見ると、通常の生活空間における地域差（福島・東京・長崎）は認められません。

一方、航空機の移動（宇宙線の影響）や十分に除染されていない森林内の移動（事故由来と考えられる放射性セシウムの影響）では、一時的に被ばく線量が高い値を示していますが、自然放射線・人工放射線の違いにかかわらず線量率を比べてみると、普段の生活空間では一定の範囲内にあることがわかります。

このように、行動範囲（場所）や活動内容の違いによる被ばく線量の変動を確認することで、我々が普段受けている放射線量のレベルを確認することができます。



※個人の活動内容：長崎大学の職員の行動履歴に基づく個人被ばく線量の結果（Dシャトル（㈱千代田テクノル製）による測定、2018年10月24日～26日）

自家製 旬！な食材 放射性物質情報

Radioactive material information

富岡町で採取された 梅および野菜の現状について

梅

2018年～2021年に測定した梅の放射能検査結果から最近の傾向をご紹介します。

南高



日本一の梅の産地である和歌山県の代表的な品種。果皮は緑色で完熟すると黄色から赤味を帯びます。サイズは25～35gくらいで肉厚でやわらかく、おもに梅干しや梅酒として使われます。

白加賀



関東地方に多く流通している青梅で、サイズは25～30g程度。果皮は淡黄緑色で、肉厚で緻密です。旬は6月からで、用途として梅干しや梅酒、梅シロップなどに向いています。

2018年	2019年	2020年	2021年
不検出(ND)の割合 25%	不検出(ND)の割合 71%	不検出(ND)の割合 71%	不検出(ND)の割合 90%
9検体/36検体	22検体/31検体	10検体/14検体	28検体/31検体

2020年は梅の不作年だったのか検査件数が例年の半分以下でしたが、年々不検出の割合が高くなってきており2018年では25%だったのが、今年は31検体中28検体と90%が不検出の測定結果でした。

梅も野菜同様、全体的に放射性セシウムによる影響は少なくなっている印象です。

野菜

今年の4月～7月検査に持ち込まれた野菜については、前年同様全て不検出でした。



- ●玉ねぎ (13検体)
- ●にんにく (９検体)
- ●じゃがいも (13検体)
- ●きゅうり (14検体)
- ●きゃべつ (６検体)
- ●なす (14検体)
- ●トマト(ミニトマト含) (７検体)
- ●ブロッコリ (４検体)
- ●その他 (61検体)

  にら、レタス、セロリ、小松菜、ほうれん草、ピーマン、かぼちゃ、にんじん等

※不検出(ND)
測定結果が「不検出(ND)」となっている場合は測定値が検出限界値未満であったことを示しています。
※測定器
非破壊式放射能測定装置(そのままはかるNDA)

なぜなに？放射線情報まとめサイト VOL.12

富岡町の放射線情報を“まとめ”たウェブサイトを2016年から開設しています。
ここでは、ウェブサイトをなかなか見る機会がない方のために紙面で“まとめ”ていきます。

【今回のテーマ】町内の除染に関する情報について　その2

前号のライフとみおかでは、除染検証委員会の概要についてご紹介しました。
今回は2021年（令和3年）6月25日に行われた委員会（第21回）で主に話し合われた内容と、除染検証委員会のメンバーをご紹介します。

特定復興再生拠点区域の避難指示解除に向けた除染・解体工事の課題について



富岡町は、令和5年春頃に特定復興再生拠点区域の避難指示解除を目指しています。
これを見据えた準備宿泊の実施を令和4年春頃から予定していますが、除染・解体工事において、依然として多くの課題が残されています。
今回はこの課題について、有識者のみなさんで会議が行われました。

除染・解体工事における現状と課題について

①除染の進捗率が低い

特定復興再生拠点区域除染進捗状況

地目	除染対象面積	除染済面積	除染進捗率※
宅地	121ha	91ha	70%
農地	85ha	70ha	82%
森林	67ha	59ha	87%
道路	28ha	34ha	91%
全体	301ha	253ha	79%

依然として全体の除染進捗率は79%にとどまっており、特に宅地においては70%という、低い状態です。
このような現状では、線量が低減しないことに加え、実際に町民が居住した際に、近辺に未除染箇所が多数残されていることになります。

※除染進捗率 令和3年6月10日時点
参考：「第21回富岡町除染検証委員会」環境省資料

②除染後の線量が高い

特定復興再生拠点区域における除染後の平均空間線量率（地上1m）

地目	除染前	除染後	低減率
宅地	1.85μSv/h	0.66μSv/h	64%
農地	2.27μSv/h	0.72μSv/h	68%
森林	2.58μSv/h	2.29μSv/h	11%
道路	1.98μSv/h	1.26μSv/h	36%
全体	1.97μSv/h	0.93μSv/h	53%

全体的に除染後の平均空間線量率が高い状況にあり、特に道路及び森林においては1μSv/hを超えています。

【平均線量測定時期】
除染前：2013年12月5日～2021年2月26日
除染後：2013年12月23日～2021年4月28日

参考：「第21回富岡町除染検証委員会」環境省資料

＼検査結果や検査方法など詳しく見てみたい！／

とみおか放射線情報まとめサイトで！



「とみおか放射線情報まとめサイト」では、町内で毎月行われている検査の日程と検査結果を公開しています。
検査方法や検査の流れなどの動画も見ることが出来ます。

◀「とみおか放射線情報まとめサイト」
https://tomioka-radiation.jp/

「町内の除染に関する情報」▶
https://tomioka-radiation.jp/josen.html

とみおか放射線情報まとめ　検索



委員より出された意見について

①進捗率を上げるためには、住民に対して除染に協力していただけるよう理解活動を進める必要がある。

②線量低減のためには、従来の除染方法にとらわれず、試行錯誤をしていく必要がある。





除染検証委員会メンバー



飯本　武志
元福島県除染アドバイザー
東京大学　環境安全本部　教授



委員長
河津　賢澄
福島大学大学院共生システム理工学類
客員教授
福島県環境審議会委員
中間貯蔵施設環境安全委員会委員長



井上　正
元福島県除染アドバイザー
一般財団法人　電力中央研究所
名誉研究アドバイザー



副委員長
飯島　和毅
国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構
福島研究開発部門　福島研究開発拠点
廃炉環境国際共同研究センター
環境影響研究ディビジョン長



藤田　玲子
元福島県除染アドバイザー
元国立研究開発法人　科学技術振興機構
革新的研究開発推進プログラム
プログラム・マネージャー

NEWS

とみおかアーカイブ・ミュージアム　オープン！

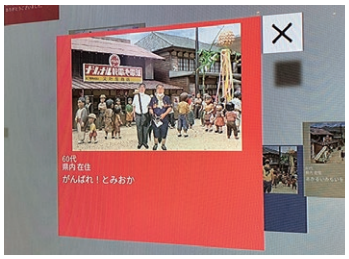


令和3年7月11日、とみおかアーカイブ・ミュージアムがオープンしました。

この施設は、歴史的複合災害である東日本大震災と原子力災害の教訓や、富岡町の歴史・文化・地域性を伝える資料や情報を、記録・保存し、発信することで、風化させずに継承していくことを目的に整備されました。









施設内には、展示スペースのほかシアターや町・館へのメッセージを入力することができるメッセージキューブなどを備えたタウンギャラリーがあります。ぜひお越しください。

Facility information

とみおかアーカイブ・ミュージアム

■住所：福島県双葉郡富岡町大字本岡字王塚760-1　■電話：0240-25-8644
■開館時間：9:00～17:00　月曜休館（月曜が祝日の場合は火曜日休館）

ライフ・とみおか

発行・編集　富岡町役場 健康づくり課
〒979-1192　富岡町大字本岡字王塚 622 番地の 1
TEL.0240-22-2111

とみおか放射線情報まとめサイト
https://tomioka-radiation.jp/

vol.13　2021 年 9 月発行